

は如何。手段で誰があけかねかと云ふ。之に
之を取るとすの時に拒む者が居るが如く、之と
競はなくしては存じぬ（中止）

廿博然作記 村上吉次

二十九年未人間の食つたてのない不利や危険を
免ゆや。其世の中にあつた。おもな小学城の嘘を
つくあとお教つた。紙上に近吹二枚、吉三枚、告を
使ふ人は伟い人である。其の中には故々嘘を宣
かなくてはあらずあくあつた。其個の事は云々はない、
例へば革軍とか……（中止）

植田好太郎

右原稿を高畠和逸が代読した。

（最後に）……第一佛蓮尊が資本家の株
券があくあるといふのは存じぬ（中止）

上

以